

Press Release

2011.11.15

日本野鳥の会が「身近な野鳥ティーチャーズガイド講習会 IN 福島県」を開催します。 (ご取材・ご報道のお願い)

公益財団法人日本野鳥の会（東京、会長：柳生博、会員・サポーター数：約5万人）は、福島県内の自然体験活動の指導者を対象に『身近な野鳥ティーチャーズガイド講習会 IN 福島県』を平成23年11月23日、「フォレストパークあだたら（福島県安達郡大玉村）」にて開催します。

この講習会では、街中でも見られるスズメやヒヨドリなどの野鳥をテーマにした、子ども向けの環境教育プログラム集「身近な野鳥ティーチャーズガイド」をテキストにして、室内でも自然を理解し、親しむことのできるプログラムを中心に紹介し、福島の子どもたちへの環境教育活動を支援します。また、長年、県内で自然体験活動の指導者として活動されてきた方たちとともに、福島における今後の自然との共生のあり方について考える機会にもしたいと思います。

【「身近な野鳥ティーチャーズガイド講習会 IN 福島県」について】

日本野鳥の会では、指導者向けプログラム集『身近な野鳥ティーチャーズガイド』を発行しています。現在、全国各地でこのプログラム集をテキストにした講習会を開催しています。

今回は、放射線被害に苦しむ福島県で開催します。福島県は全体の約70%が森林におおわれており、長い歴史の中で独特の森林文化を築きあげてきました。ところが、このたびの放射線被害によって、人々の足は森から遠のき、それは長期化することが予想されます。今後、放射線の影響を十分考慮しつつ、子どもたちの自然体験の場として安全な森との関わり方や、人と森との共生をどのように回復していくかを考えていく必要があります。講習会ではその第一歩として、室内プログラムを中心に、子どもたちの野外活動が制限される地域でも実施できる環境教育プログラムを提案します。

受講者は、自然体験活動の指導者および指導者を目指す方です。「福島県もりの案内人」「日本野鳥の会福島県内各支部」「福島市小鳥の森のボランティア」等において、人と森との架け橋となり活動されてきた方々も参加される予定です。震災以来集まる機会がなかった方々が一堂に集まり、福島における今後の自然との共生のあり方について意見を交わす機会ともなっています。

【ティーチャーズガイドについて】

日本野鳥の会では、スズメやムクドリ、ツバメなど、市街地でも観察できる野鳥をテーマにした、指導者向けの環境教育プログラム集『身近な野鳥ティーチャーズガイド』を発行している。18のプログラムと、付録としてワークシートやイラスト教材が収録されたCD-ROMがついており、野鳥を観察する上での基礎知識や、鳥インフルエンザなどの話題についても取り上げ、野鳥と野鳥がすむ自然を正しく知るためのガイドとなっている。（2000円で頒布）

◆詳しくはホームページ <http://park2.wakwak.com/~wbsjsc2/ssspt/MTG-index.html>

【実施概要】

- ◆日 程： 平成 23 年 11 月 23 日（祝） 10：00～16：00
- ◆会 場： フォレストパークあだたら レクチャーホール
福島県安達郡大玉村玉井字長久保 68
- ◆参加費： 2000 円（テキスト代含む） ◆定 員： 40 名
- ◆対 象： 自然体験活動指導者および指導者をめざす方
- ◆講 師： 五十嵐悟（日本野鳥の会 福島市小鳥の森レンジャー）、萩原洋平（日本野鳥の会 東京港野鳥公園レンジャー）、箱田敦只（日本野鳥の会 人材育成 P J）
- ◆主 催： 公益財団法人日本野鳥の会
- ◆後 援： 福島県日本野鳥の会連携団体連合会、財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団、福島民友新聞社、環境省裏磐梯自然保護官事務所
- ◆お申し込み・お問い合わせ先：
福島市小鳥の森（担当：五十嵐 悟） 〒960-8202 福島市山口字宮脇 98
TEL：024-831-8411 FAX：024-534-8800

【公益財団法人日本野鳥の会について】（詳しくはホームページ <http://www.wbsj.org>）

自然と人間が共存する豊かな社会の実現を目指し、野鳥や自然のすばらしさを伝えながら、自然保護を進めている民間団体である。全国 5 万人の会員・サポーターが、自然を楽しみつつ、自然を守る活動を支えている。

- ・創設：1934 年 ・創設者：中西悟堂 ・連携団体：全国 90 団体
- ・2011 年 4 月、「財団法人日本野鳥の会」は「公益財団法人日本野鳥の会」へ移行しました。

<野鳥や自然を大切に思う心を伝えます>

- ・ 全国 10 か所のサンクチュアリやバードプラザを訪れる、年間約 26 万人に野鳥や自然のすばらしさを伝えている。
- ・ 東京バードフェスティバルなどの大規模イベントへの参加や野鳥図鑑などの発行を通して、バードウォッチングの楽しさを伝えている。
- ・ バードウォッチングの指導・案内のできる人材の育成を進めている。

<野鳥や自然を守ります>

- ・ 北海道東部のタンチョウの営巣地を中心に、土地の買取りや協定により野鳥保護区として保全している。現在、保護区の面積は 33 か所、2938.9ha で、自然保護団体としては国内最大級である。
- ・ 鳥類の生息地として保全が急がれる場所を明確にするため、国際的に重要な鳥類等を指標にした重要度の基準（I B A基準）を満たした野鳥の重要な生息地の選定、リストの公表を行ない、保全の推進、ネットワーク化を行なっている。

<公益財団法人です>

日本野鳥の会は、公益財団法人に認定されており、個人や法人が支出した寄付金に対して所得控除や損金算入が設定されている。

■本リリースの配布先

福島県庁記者クラブ
環境省記者クラブ
環境記者会

●本件に関するお問い合わせ

公益財団法人日本野鳥の会
福島市小鳥の森 担当：五十嵐 悟（イガラシ サトル）
〒960-8202 福島市山口字宮脇98
TEL：024-531-8411 FAX：024-534-8800
メール：igarashi.s@wbsj.org